

カリキュラムに関する質問

なぜケンブリッジインターナショナルクラス（以下 IC）を新設したのですか。

ケンブリッジインターナショナルクラスを開設する目的としては、本校の理念をより高いレベルで達成するためです。理念を達成するためにこれまでも教育活動を実施して参りましたが、英語でもその理念を達成することを可能にする選択肢を新たに作ります。IC コースの設置により、本校の国際教育をさらに充実させ、生徒の選択肢を広げたいと考えています。

なぜ MYP ではなく、ケンブリッジ国際教育プログラムを導入したのですか。

ケンブリッジプログラムのうち、IGCSE の最後に公式の試験があります。IBDP にも最終試験があり、そちらの試験を受験する前に公式の試験に慣れることができるという点で利点があると考えています。また、IGCSE では終了証が授与され、これは大学受験の際に学力の証明として提出することが可能です。さらに、ケンブリッジ国際教育と IB は、探究的な学習姿勢や思考力を重視する点で共通点が多く、IGCSE での学びや試験経験は IBDP への良い準備にもつながると考えています。

高校 1 年の 12 月までケンブリッジの IGCSE プログラムで学び、その後は IBDP に移行するのとありますが、なぜケンブリッジの A Level を実施しないのでしょうか。

本校には、もともと IB コースがあり、これまで長年にわたり IBDP の指導体制を整備するとともに、幅広い科目選択肢を提供してまいりました。

今回開設するケンブリッジ・インターナショナルクラス（IC）は、ケンブリッジの教育プログラムそのものを最終到達点とするのではなく、中学校段階から本校の IB コースへ円滑に接続するための教育課程として位置づけています。

そのため、中学段階から高校 1 年の 12 月まではケンブリッジの IGCSE を中心に学び、その後は A Level ではなく、これまで本校が培ってきた IBDP の指導体制へ移行する設計としています。

このように、IGCSE 等の中等教育段階のプログラムから IBDP へ接続する教育課程は、世界のインターナショナルスクール等でも見られる一般的な進路の一つです。本校では、ケンブリッジの教育プログラムと本校が長年培ってきた IBDP の教育環境、それぞれの強みを生かしながら、生徒が中学段階から高校の IBDP へ無理なく移行できるカリキュラムを目指しています。

どの教科をケンブリッジ国際教育のカリキュラムで学びますか。

英語・数学・理科・社会をケンブリッジ国際教育のカリキュラムで授業を実施します。これらの教科は英語で学び、日本の学習指導要領にも則った形で本校のカリキュラムを作成します。

IC ではどのような学習を行いますか。

IC コースでは、ケンブリッジ国際教育のカリキュラムに加え、日本の学習指導要領に基づく内容も英語で学習します。英語を通して、思考力や表現力を育成することを目指しています。

歴史総合などの科目はどのように扱われますか。

IC の社会科系科目は、ケンブリッジ国際教育の学習スタイルを取り入れながら、歴史総合などの内容も英語で学ぶ予定です。なお、ケンブリッジ国際教育の指定教科書は無く、探究的・発展的な学びを重視した授業を行います。

IC コースを修了した場合も、日本の中学校卒業資格は得られますか。

はい。日本の中学校義務教育課程を修了した扱いとなります。

IC クラスから国際バカロレアコース（以下 IBDP）へ進級する場合、日本の高校卒業資格は得られますか。

はい。得ることができます。

IGCSE ではどの科目を開講する予定ですか。

英語・数学・理科・社会の科目を開講します。

言語に関する質問

日本語力の維持はできますか。

国語については、日本の学習指導要領に沿って、現代文だけでなく古文・漢文も含めて学習します。また、学校生活や課外活動を通して、日本語でコミュニケーションを取る機会も多く、日本語運用能力を十分に育むことができると考えています。

IC に必要な英語力および日本語力の目安はありますか。

IC 入試の英語の試験問題は英検 2 級以上、日本語の試験問題は日本語能力試験（JLPT）N2～N3 程度を目安としています。

ただし、実際に入学される方はこれらの試験問題のレベルの目安よりも高い可能性があります。英語・数学・理科・社会の授業では英語で授業を行うので、英語を学習のツールとして使用できる英語力が必要です。日本語で実施する授業も同様に、日本語で理解して表現する力が必要となります。

国語の授業は日本語力によるクラス分けはありますか。

入学者の日本語力に応じて、必要に応じてクラス分けをする準備を進めています。

英語の授業では、英語力に応じた取り出し授業や、レベル別のクラス分けはありますか。

IC の英語の授業では、生徒一人ひとりの英語力に応じた学習ができるよう、「Cambridge Lower Secondary English」と「Cambridge Lower Secondary English as a Second Language (ESL)」の 2 つのレベルの授業を開講する予定です。

入学時の英語力を踏まえてクラス分けを行い、それぞれの生徒の英語力に適した内容・レベルで学習できるように、現在準備を進めています。

なお、IC の英語の授業は、他コースの生徒と合同で行うことはなく、IC 生を対象として実施します。

英語以外の授業において、英語力の高い生徒を対象とした取り出し授業や、習熟度別の授業はありますか。

英語以外の授業については、数学・理科・社会の授業において、1クラス40名のホームルームを2つのグループに分け、少人数で授業を行います。

ただし、これは英語力や学習の習熟度に応じて生徒を分けるものではありません。少人数で授業を行うことによって、生徒一人ひとりの理解度をより丁寧に把握し、教員との対話や活動の機会を増やすなど、より効果的な教育活動を行うことを目的としています。

授業以外でも英語を使う機会はありますか。

本校は多くの海外姉妹校と提携しており、交流授業や短期留学、ホームステイの受け入れなどを通じて、英語を使う機会があります。また、海外研修旅行や短期・中期・長期の留学プログラムも充実しており、授業以外でも実践的に英語を活用できる環境を整えています。

入学後の三者面談は日本語ですか。

本校は複数担任制をとっており、日本人教員と外国人教員の双方が担任になることを想定しており、面談などでは必要に応じて日本語と英語の両言語で実施する予定です。

他コースとの関係に関する質問

IC から国際バカロレアコース（以下 IBDP）へはそのまま進学できますか。

基本的には、IC から IBDP へ接続することを想定しています。

高校から IBDP や IC に入学することはできますか。

はい。高校入試を経て、IBDP や IC へ入学することが可能です。

アカデミアクラス（以下 AC）・茗溪ジェネラルクラス（以下 MG）から IC へ変更することはできますか。

年度途中でのクラス変更はできません。各コースの在籍状況により、年度が変わる時点で変更できる可能性はあります。

音楽・美術・体育などは他コースと合同ですか。

音楽・美術はクラス単位で実施する予定です。体育については、他コース（AC・MG）の生徒と合同で行う予定です。また、部活動や学校行事などを通して、他クラスの生徒とも交流する機会があります。

IBDP コース進級を目指す場合、AC や MG のクラスから IBDP への進級は可能ですか。

はい。従来通り学内の基準を満たす希望者は、AC や MG から IBDP コースへ進級できます。

進路支援に関して、IC、AC、MG で違いはありますか。

卒業生との交流や学校内での大学説明会などは、全コース共通の開催となります。国内大学・海外大学いずれを志望するとしても、生徒それぞれの進路支援を学校全体でサポートしています。

コースが異なる生徒との関わりはありますか。

部活動や学年行事（キャンプや研修旅行など）、学校行事（文化祭や体育祭、校技大会など）、各種課外活動（短期海外研修プログラムや生徒会など）、寮生としての交流など、コースの垣根を越えて交流する機会があります。

入試に関する質問

入試において、英検取得による優遇措置はありますか。

受験資格として英検資格を定めていますが、取得級による加点などの優遇措置はありません。

インターナショナルスクール在籍で、日本の小学校卒業資格がない場合でも受験できますか。

はい。受験可能です。

インターナショナルスクールに通っているわけでも、帰国生でもない場合、受験はインター生や帰国生に比べて不利になりますか。

いいえ。出願要件を満たす限り、入試結果において判断するため、在籍校での有利不利はございません。

入試問題は日本語ですか。

算数の出題は英語を併記し、文字を書く必要がある場合は英語でも回答可能といたします。日本語の試験では N2-N3 程度の問題レベルとなっていますのが、合格される方はそれよりも高い日本語能力を持っている可能性があります。日本語の試験に対してもしっかりと準備をして臨んでください。

11 月の入試で不合格となった場合、再度 1 月に出願することは可能ですか。

はい、可能です。本校入試では出願資格を満たす限り、試験日が重ならない試験の併願は可能で、複数回の受験することの有利不利はございません。

入試問題のサンプルはありますか。

いいえ、ありません。ただしこれまでの国際生特別選抜の試験内容と同程度のレベルを想定しておりますので、国際生特別選抜の試験問題を解くことが入試対策につながります。過去問に関してはデータでお送りしておりますので、ご希望の場合は entry@meikei.ac.jp にお問合せください。

英語、日本語、算数はそれぞれ等しく評価されますか。

はい、それぞれ等しく評価します。日本語と算数は 50 分内にまとめて解答するため、時間配分には注意してください。

IC 入試が不合格だった場合、AC や MG コースへのスライド合格はありますか。

IC から他コースへのスライド合格はございません。

その他の質問

IC の授業はネイティブ教員が担当しますか。

ネイティブ教員を中心に、英語で教える能力を有した経験ある教員が担当いたします。

ホームルーム担当は、日本人教員と英語話者の教員の複数担任制となる予定です。

IC でも複数担任制になりますか。

はい。IC においても複数担任制を予定しています。

日本の大学進学を希望する場合、IC は不利になりますか。

いいえ、不利になるわけではありません。IC コースは IBDP への接続を想定したコースであり、本校の IBDP 卒業生の約 4 割は国内大学へ進学しています。多くの生徒が IB 入試や総合型選抜、学校推薦型選抜を活用しており、国内大学への進学において不利になっている状況はありません。

部活動との両立は可能ですか。

IC や IB コースでは課題や探究活動が多く、忙しい学校生活となります。一方で、部活動と両立している生徒も多くいます。学習とのバランスを考えながら、自分に合った活動を選択することが大切です。

現在の国際教育プログラムや海外留学制度は、IC の生徒が優先されますか。

いいえ。コースに関係なく参加可能です。

茗溪学園にはどのくらい外国人教員がいますか。

専任・非常勤講師を合わせて、15 名程度の外国人教員が在籍しています。

学費を教えてください。

学費や諸費用については、本校ホームページに公開している募集要項の最後のページをご確認ください。

土曜日がお休みのようですが、その分長期休暇が短めなのでしょうか。夏休みなど、一般的な期間と比べて良いでしょうか。

夏休み期間は 7 月中旬から 8 月下旬までとなっています。冬休みや春休みは一般的な学校と同程度の長さです。